

「先行期の問題により、食事中的見守りや軽介助が外せなかった

症例の認知機能に関する考察」についてのお知らせ

国立病院機構東埼玉病院では、標記の研究を行っております。

1 実施目的について

脳血管疾患後遺症による摂食・嚥下障害患者様の摂食時の自立状況と認知機能の関連を検討することを目的としています。

脳血管疾患後遺症による摂食・嚥下障害患者の認知機能と摂食時の自立度との関連が示されれば、日常臨床および退院後の生活における介助量の予後予測に寄与できます。

2 実施内容について

国立病院機構東埼玉病院リハビリテーション科に入院中の脳血管患者様のうち、2010年4月1日～2013年8月31日に言語聴覚士による摂食・嚥下訓練を実施し、退院時に3食自己摂取可能で、長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)と日本版レーヴン色彩マトリックス検査(RCPM)の認知機能検査を行った患者様を対象とします。東埼玉病院内の診療録を分析します。

3 調査期間

2010年4月1日～2013年8月31日を本研究の調査期間といたします。

4 研究責任者

池澤 真紀 (国立病院機構東埼玉病院 言語聴覚士)

5 個人情報およびプライバシーの保護について

この研究では、情報を連結可能匿名化して記録します。この研究による個人情報やプライバシーの漏洩や公開は生じませんし、この研究に個人情報が使用されることもありません。

この研究についてご質問があるときは、上記の研究責任者までお問い合わせください。もしくは病棟看護師長にお申し出ください。

また、この研究に参加されたくない方は、上記の研究責任者もしくは病棟看護師長にお申し出ください。